

Press Release

平成26年7月9日
日本公認会計士協会

「公認会計士の日」大賞受賞者について

大賞概要

日本公認会計士協会では、7月6日を「公認会計士の日」と定めており、これに因み、「公認会計士の日」大賞を表彰制度として平成21年に創設した。

当該賞は、会計、監査等に対する社会的関心の向上に貢献した者、公認会計士制度の普及に貢献した者、公認会計士の社会的地位及び知名度の向上に貢献した者を対象とし、毎年、功績が顕著な者を表彰する制度である。

本年も昨年同様、公認会計士としての視点のみならず、広い視野に基づく多面的な選定を行うため外部有識者を加えた選定委員会において選定を行った。

第6回受賞者

大賞（1名）

西川 郁生 氏

選定理由：西川郁生氏は、平成5年から平成10年まで国際会計基準委員会の日本代表を務め、我が国の会計基準と国際会計基準との調和に貢献した。平成13年、企業会計基準委員会創設と同時にその副委員長に就任し、その後、平成19年に委員長に就任した。

国際的には、国際会計基準審議会と米国財務会計基準審議会とのノーウォーク合意以降、会計基準のコンバージェンスが加速する中、平成19年8月、国際会計基準と日本の会計基準との相違を解消する、いわゆる「東京合意」を導き、コンバージェンス作業を推進した。その後も、エンドースメント作業を進める中で、我が国における会計基準の開発、整備、意見発信の中核を担い、我が国の会計基準の普及・発展に貢献した。

特別賞（1名）

金子 晃 氏

選定理由：金子晃氏は、平成16年4月に創設された公認会計士・監査審査会の初代会長として、2期6年間務めた。

平成13年のエンロン事件より会計・監査を巡る不祥事が世界的に多発し、アメリカでは監査監督機関であるPCAOBが設置され、同様の動きがカナダ、イギリスなど多くの国で起こった。こうした背景の中で我が国においても、公認会計士・監査審査会が設立された。

我が国の監査監督規制は、監査業界から独立した機関を設けた諸外国とは一線を画し、日本公認会計士協会が自主規制として実施してきた品質管理レビュー

一制度を前提としてきた。同氏は、この我が国の監査監督制度を軌道に乗せ、定着させることに貢献し、監査の質の向上と信頼性の確保に大いに尽力した。

また、各国の独立監査監督機関との協力関係の構築・充実に努めるとともに、監査監督機関国際フォーラムなどで我が国の監査品質の対外的な発信に貢献した。

選定委員特別賞（1名）

田中 英淳 氏

選定理由：田中英淳氏は、岐阜県立岐阜商業高等学校の教諭であり、同校の簿記部顧問として指導にあたっている。同校は、年に一度開催される「全国高等学校簿記コンクール」において、平成13年から平成22年までの10年間、連続で団体優勝した。その後も平成23年は団体準優勝、そして平成24年には団体優勝に返り咲き、長年、優秀な成績を収めている。

同氏の指導は若者の会計基礎教育に大きく貢献するものであり、公認会計士制度の裾野を広げる活動であるとして、今回特別に選定委員特別賞を贈ることとした。

選定委員会委員

「公認会計士の日」大賞選定委員会委員（敬称略）

委員長 釜 和 明（公益財団法人財務会計基準機構 理事長）
委員 引 頭 麻 実（株式会社大和総研 常務執行役員 調査本部副本部長）
委員 高 田 敏 文（東北大学会計大学院 経済学研究科教授）
委員 山 田 治 彦（日本公認会計士協会 副会長）
委員 北 方 宏 樹（日本公認会計士協会 広報担当常務理事）

以 上